

平成29年度 唐崎小学校学校評価書

大項目		中項目	小項目	自己評価	学校関係者評価	今後の改善に向けて	
				評価に関する説明	意見・提言等		
確かな学力と個性を伸ばす教育の推進に關して	学習指導の充実		教材研究やICT活用などに努め、楽しくよくわかる授業を実践しようと努めた。	A	A	・授業にICT機器を用いることは、教師にとっても児童にとっても有効である。学年で活用状況を交流したり、学校全体で研修の場を設けるなどすることにより、活用が学校全体の物となるようにする。 ・「全国学力学習状況調査」や滋賀県の「学び確認テスト」を実施し、結果を分析する。本校の強みや弱みに応じた授業改善を図る。	
			指導体制・指導方法の工夫改善に努め、学力向上を目指した。				
			学校の学習を家庭学習につなげるために、家庭学習の手引きの配布や夏休み学習相談日の実施等、その習慣化に向けて取り組むことができた。				
			学校全体として指導力・教育力の向上を目指し、職員研修に努めた。				
	主体的・学び活的で深い		互いに認め合い支え合う支持的風土を育てる学級・学年集団作りに努めた。	A	A	・新学習指導要領をもとに、今後、必要となる「学ぶ力」についての共通理解を図り、本校の児童の実態に応じた「主体的・対話的で深い学び」を育む授業改善を目指す。 ・他校の取組も参考にしながら研究を組織的かつ継続的に進める。	
			協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善に努めた。				
	体験活動の充実		「めあて」「ふり回り」や学び合いを取り入れた授業づくりを行うなど、主体的・対話的で深い学びを追究する授業研究や研修会に取組んだ。				
			各教科、総合的な学習の時間において体験的な学習を積極的に実施するように努めた。	B	A	・調べる→まとめる→発信するの基本的な活動の中に、どんな体験活動を位置づけるか、4月当初に共通理解をする。 ・発表の場を他学級、異学年、幼稚園保育園交流等を活用して増やしていく。 ・地域や保護者への成果の発信となるよう、地域に出かけた後、お世話になった人にお礼の手紙を出したり、感謝の気持ちを伝える機会を作っていく。	
			体験的な活動においては、学習のまとめとして発表会等の時間を設定するように努めた。				
		体験活動の過程や得られた学習の成果を、保護者や地域へも発信するように努めた。					
読書活動の推進		朝の読書タイムや読み聴かせによって、落ち着いた気持ちで一日が始まるように意識して取り組んだ。	A	A	・学級文庫に読みたくなる本が充実する工夫を今後も期待する。 ・PTAの予算を利用して、子どものリクエスト本をタイムリーに購入する取組もいいのではないかと。 ・デジタル化されたものが社会に増えたからこそ、読み聞かせの取組は大切である。続けてほしい。		
		読書環境の充実にも努め、読み聴かせボランティアを積極的に活用した。					
豊かな人間性と社会性を育む教育の推進に關して	道徳教育、特別活動の推進		道徳の時間を公開するなど、保護者や地域との連携も視野に入れて道徳教育に取り組んだ。	B	B	・良い資料は学校、学年で共有するなど、資料の質の向上に努める。 ・学校行事や学習内容との関連を意識しながら、そのときに応じた資料を活用し、道徳の時間を要に道徳教育を進めていく。 ・教科化に伴って、校内研修や教材研究を重点的に行っていく。 ・代表委員会や委員長会を更に充実させ、学校改善に生かす。 ・学級活動年間指導計画を年度当初に配布し、意識的に話し合い活動を行えるようにする。 ・子どもたちの意欲を引き出し、やり遂げることの楽しさや満足感、自己有用感が得られるような工夫をする。	
			生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を育てる活動を工夫した。				
			道徳の教材研究を行い、資料の整備に努めた。				
			学級活動の時間は、自治的能力を高めるために学年の発達段階に応じて適切に指導を行った。				
	生徒指導・教育相談の推進		当たり前の5箇条を意識し、決まりを守って行動できる児童を育てよう指導した。	A	A	・「当たり前の5箇条」やいじめに対する学校のせつ々の取組が、家庭・地域に伝わりにくいところがある。発信を工夫しても良いだろう。 ・「いじめ」に迅速に対応していたでいて、周囲が「いじめ」に気づくことができる。自分から伝えられる環境を、学校・家庭・地域でつくっていきたい。	
			気持ちのよいあいさつや返事ができるように継続的に指導した。				
			問題行動や不登校等の課題に対して、保護者・担当と連携して組織的な指導・支援ができた。				
			思いやりの気持ちを持って人と接するよう継続的に指導した。				
	特別支援教育の推進		「いじめは絶対許されない」と毅然とした態度で指導し、いじめを許さない学級風土づくりに努めた。	B	A	・情報の公開を丁寧に言い、組織の体制が見えるようにしていく。（個別の指導計画作成までの道筋、巡回相談までの道筋、就学相談までの道筋、入級までの道筋を文書化して丁寧に知らせる。） ・個別の指導計画の活用法や合理的配慮について全体研修を行う。 ・取り出しが必要な児童を学校全体としてどう見ていくか検討する。【現在取り出し人数16名（平均 週2回）】 一取出したことによる担任の先生の見解 落ち着いている。学習の理解が深まった。できたという自信につながっている。もう一つの居場所になっている。躓いているところに焦点が当てられる。	
			組織的・計画的な特別支援教育の体制作りに努めた。				
			校内委員会を組織し、支援を要する児童の個別の指導計画を作成・活用し、支援に努めた。				
			巡回相談等を活用し、関係機関と連携した相談体制の充実にも努めた。				
たくましく生きるための健康や体力づくりの推進に關して	体力づくりの推進		たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善に努めた。	A	A	・PTAが企画・運営した「逃走中」が、子ども達にも保護者にも盛況だった。 ・マラソン、なわとび等の取組が、子ども達がエネルギーを正しく発散できる機会となっている。	
			ダッシュタイム等、運動に親しむ環境作りや体力づくりを推進する運動実践に努めた。				
			体を動かす気持ちよさを体験させ、進んで体を動かそうとする意欲の育成に努めた。				
	健康安全教育の推進		望ましい生活習慣が身につくように継続的に指導した。	B	B	・トイレの改修については、行政の力も必要となる。 ・各家庭で眠っているペルマークやインクカートリッジの回収率を上げる余地があるのではないかと。 ・廊下歩行の徹底を。特に雨の日など、一部の教員だけでなく、全ての教員で指導した方が効果的。	
			施設・遊具の安全点検などは、子どもの目録で実施した。				
	地域に開かれた学校に關して	家庭・地域との連携		保護者との個別相談や必要に応じて関係機関との連携を図り、子育てに対する積極的な支援に努めた。	A	A	・メール配信システムについて、地域の方々にも知らせ登録率を上げるのが良いのではないかと。 ・ホームページの更新を継続的に進めていきたい。 ・防犯教室の対象は、低学年のみでよい。
				ファミリー学習参加や地域安全マップ等、保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会の実施や地域人材の活用に努めた。			
		保幼小・小中連携活動の推進		家庭・地域と連携しながら防犯・防災教育の推進を図るため、メール配信やホームページを活用した情報発信をし、安心・安全な学校作りに努めた。			
				保幼小中の連続性を意識し、子どもの校種間交流や教師の出前授業等の具体的な連携に努めた。	B	A	・学区内7園のメーリングリストは有効活用をさらに進めていくと良い。 ・保幼交流を更に増やす場合、各園からの申し出や立案を原則としていくと良い。（5・5交流の申し出など） ・保幼の保育士さんから、唐小の入学説明会で保護者に伝える内容を予め知っておきたいと仰っていました。→入学のしおりを事前に渡すなど。 ・前年度までの反省点を十分に整理し、担当教諭の思いを生かせる計画を立てる。そして、年間計画を基にし、変更点はできるだけ早く書面にて周知するようにする。
			唐崎人権教育研究会（唐教研）など、保幼小・小中の校種の枠を超えた合同研修会を実施した。				
	保幼小連絡会、小中連絡会、体験入学の際など、校種間の授業公開や教育内容等についての交流に努めた。						

評定（達成度）の目安	
	指標
A	目標を上回る達成
B	目標を達成または概ね達成
C	目標を達成せず
D	目標を大きく達成せず